

【大学より学園祭特別公演のご案内】

大瑠璃祭 特別講演のご案内

京都医療科学大学

学友会会員の皆様には京都医療科学大学および学友会の発展のため御尽力いただき、心から感謝しております。さて、今年の大瑠璃祭のなかで、**卒業生および在学生に向けて**“大学院への進み方、国際交流の醍醐味”について、近畿大学医学部医学科教授の門前 一(もんぜん はじめ)先生に講演を御願ひしております。

京都医療科学大学内と Web 配信のハイブリッド方式を予定しております。

大学院に進むためにはどのような方法があるのか、どのような人材が大学院に受け入れてもらえるのか、さらに大学院に入学するための必要条件、また、海外への視野を広げ、国際貢献の経験など詳しく話していただく予定です。

演題：大学院への進み方、国際交流の醍醐味

演者：近畿大学医学部 放射線医学教室 放射線腫瘍学部門

近畿大学大学院 医学研究科 医学物理学専攻 教授 門前 一 氏

日時：2022年10月29日(土) 13:00~14:00

会場：京都医療科学大学 A302 教室および Web 配信(接続可能時間：12:40~)

Web 形式：Zoom Meetings

※通信料は参加者負担になりますので、Wi-Fi 環境のある場所での参加をお勧めいたします。

Web 参加について：**卒業生・在学生を対象とします。**

以下の URL、または QR コードにて事前に申込をお願いいたします。

URL：<https://ws.formzu.net/dist/S371317405/>

Web 参加締切：10月26日(水) 23:59



大学院への進み方、国際交流の醍醐味

近畿大学医学部 放射線医学教室 放射線腫瘍学部門

近畿大学大学院 医学研究科 医学物理学専攻教授 もんぜん はじめ 門前 一

ゴルフ場のキャディーさんから仕事を尋ねられ、診療放射線技師ですと答えると、『お金持ちなんですね』って軽薄口が返ってくる時代になりました。

ドラマでも主人公を演じ、漸く医師もどきでなく、職業が社会に認知されたと感じます。技師の視点で技師を観察しても、病院での仕事は中労働、重責でない割に生活レベルはミドルの少し上くらい。

当たり前のように家や車を持ち、子供を大学に通わすことのできる、いわば不満・不安の少ない職業にみえます。しかし、買い手市場(就職難)、雇用形態の変化(有期雇用)、遊休人員、日本経済の衰退、高齢化等、リスク因子は枚挙に遑がないです。平和ボケした技師がこのまま穏便に過ごしていけるのでしょうか。

私は技師になって30年、臨床・教育・研究、すべての分野を仕事として経験してきました。卒業後の20年、大津赤十字病院勤務に診療放射線技師として勤務しました。在職中に大学院への進学、30歳の時にはアメリカに留学する機会に恵まれ、35歳ではJICA(国際協力機構)のプロジェクトマネージャーを併任しました。病院退職後は、教員・研究の道に進み、45歳の時にはIAEA(国際原子力機構)の専門官併任などを歴任、現職に至っています。数年前までは技師が技師教育の中心的な担い手になること、技師が研究を生業とすることは夢のまた夢でした。しかし時代は変わり、皆さんの周りには「こんな技師や先生になりたい」「10年後にはこの人と同じようなキャリアを形成したい」と自分の動や考え方など、キャリア形成の上でお手本になる色んな分野で働く先輩(ロールモデル)が存在しているのではないのでしょうか。やっとなりて技師も黎明期を乗り越え、過渡期が到来したのかなと思います。過渡期と感ずる理由は病院で働くことが、多くの選択の1つになってきたことから言えます。リスク因子を回避して、過渡期→成長期→全盛期、さらに高みを目指すために、日々の1mmの成長・努力が必要です。本講演では臨床・教育・研究、留学、国際貢献に携わった経験をもとに、それぞれの良かったこと、気をつけることなど、私感を交え解説します。また、本講演が身近にいる「格好いい」「素敵な」技師になるため、人生のリスクオフ(将来像の幅を持つ)、そして1度の人生をよりhappyにする一助となれば幸いです。

末筆となりますが、この様な貴重な機会を与えて頂いた、京都医療科学大学の関係諸氏に深謝申し上げます。

以上